言葉を育てるゲーム

LINGOPLAY

ドイツ・ケルン市の言語学研究者が考案した「言葉を育てるゲーム」

1999年創業のリンゴプレイ社のゲームは言葉で伝え合うこと・正しく言葉を使うことを、楽しく遊びながら身につける目的でケルン市内の幼稚園や小学校の子どもたちに遊んでもらいながら改良を重ねています。今ではドイツ、フランス、スイスなどヨーロッパ以外にアジア圏で教材として使われています。

【ゲームの特徴】・プレイしながらカードの絵を声に出して言葉に表すことです。
言葉にすることでその事柄を正しく理解(認知)する力を育てます。

・ルールがシンプルなことです。
複雑なルールを覚えることに気を取られることなく聴くこと、見ること、言葉にすることを、楽しみ伝え合う喜びを感じることができます。

ゲームを始める前にまずカードに何が描かれているかをみんなで確かめるといいでしょう。知らない絵や動物があれば図鑑で調べたり、知らない言葉があればその意味について話し合ってみましょう。こうした時間こそが子どもの言葉の世界を広げる事につながります。

■声に出して言葉に表すゲーム

友達とゲームを通して楽しく遊ぶことで、新しい事柄に出会い発見し理解し、次第に論理的に考える力を身につけていきます。各ゲームに共通するルール「声に出して言葉に表す」ことは、物の名前を覚え、物事を理解し、状況や状態を把握して、自分の考えを言葉にしていく力を育てていきます。

●反対　状況や意味が反対または対比する言葉とそれを表す絵をペア(対)にする

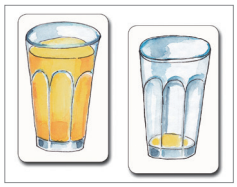
LC-1　**さかさまペア**　￥2,420 (税込)

4歳～ /2～6 人 / 約 20 分 / カード×30 (15 組) 黒猫×1 / カード:W6.2×D10cm

「濡れていると乾いている」「遠いと近い」などがペア(対)になるババ抜きです。ペアになる理由を言葉で表しながら場に出します。
「黒猫」カードを最後に持っていた人が負けです。

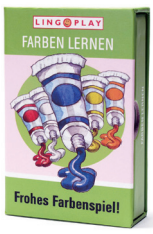
「あつい」と「さむい」

「ぬれている」と「かわいている」



「いっぱい」と「からっぽ」

●仲間分け　いくつかあるモノの中から共通性に気づき1つのカテゴリーにくくる



例:あおいはな

代表カード

例:動物の仲間のウシです
→動物の仲間の馬です
→動物の仲間のブタです

LC-11　**楽しい色並べ**　￥2,420 (税込)

4歳～ /2～4 人 / 約 20 分 / カード×32/ カード:W6.2×D10cm

8つの「色」に仲間分けします。手持ちのカードの中に、場に出ている絵の具カードと同じ色のカードがあればその列に出します。
この時「赤の仲間のトマトです」と色と物の名前を言葉に表します。
一番早く手持ちのカードが無くなった人が勝ちです。

LC-5　**どれの仲間かな？**　￥2,420 (税込)

5歳～ /2～4 人 / 約 25 分 / カード×32/ カード:W6.2×D10cm

果物、動物、楽器、乗り物など身近なものを8つのジャンルに仲間分けします。手持ちのカードの中に、場に出ている代表カードと同じジャンルのカードがあればその列に出します。この時「楽器の仲間の太鼓です」とジャンル名と物の名前を言葉で表します。一番早く手持ちのカードが無くなった人が勝ちです。